



Gérard Poulet

ジェラルール・プーレ

Gérard Poulet started as a child prodigy. His father, the violinist and conductor Gaston Poulet had the privilege of giving the first performance of Debussy's Sonata in 1917, with the author at the piano. Gérard entered the Conservatoire National Supérieur in Paris at the age of eleven, and left the following two years with a unanimously awarded first prize. Aged eighteen, he carried off the first prize at the Paganini Competition in Genoa.

As he continued to benefit from the teaching of such masters as Zino Francescatti, Yehudi Menuhin, Nathan Milstein and especially Henryk Szeryng, who considered him his "spiritual heir", numerous concerts were to follow, and his career developed rapidly worldwide: from Europe to Asia, from America to Africa, where he plays today regularly with the finest orchestras, while he takes part in the most prestigious musical seasons, including those of Radio France, the Musée d'Orsay.

No less than an eminent concert player, he is one of greatest pedagogues of our time. After he taught for 25 years at the "Conservatoire National Supérieur de Musique de Paris", "Conservatoire National de Région de Paris" and the "Ecole Normale de Musique in Paris", Gérard Poulet was a visiting professor at the "Tokyo University of Arts" (Tokyo Geidai) from April 2005 to March 2009.

Currently, he is a professor at the "Showa University of Music" in Japan.

Besides giving master classes all over the world, he is also a member on the juries of major international competitions.

He was decorated with the "Officier des Arts et Lettres" in 1995, and the "Officier National de Mérite" in 1999.

フランスが誇る、世界的ヴァイオリニストにして、偉大な教育者。ジェラルール・プーレは、指揮者とヴァイオリニストであったガストン・プーレの息子として天才少年期を送る。(父親のガストンは、1917年ドビュッシーが「ヴァイオリン・ソナタ」を作曲家自身のピアノで初演の際、共演したヴァイオリニストである。)

11歳でパリ国立高等音楽院に入学、2年後に首席で卒業。18歳でパガニーニ国際コンクール優勝。フランチェスカッティ、メニューイン、ミルシュテイン、とりわけ人生の師と仰ぐヘンリック・シェリング等の巨匠に師事。

世界各地でソリストとして活躍。多くのオーケストラと共演を重ね、キャリアを世界中に広めた。これまでに、パリ管弦楽団、フランス国立管弦楽団、ストラスブール国立管弦楽団、リール、ボルドー、RAI・トリノ オーケストラ、プラハラジオ交響楽団、リージュ・フィルハーモニック管弦楽団、北京交響楽団、シュツットガルト管弦楽団、読売交響楽団、東京シティ・フィルハーモニック、仙台フィルハーモニック、大阪シンフォニカー等と共演。

77歳を超えた今も「現役」の演奏家としてコンサート活動を行っており、各国の主要な国際コンクール審査員(長)に招聘されている。

偉大な教育者でもあり、2003年長年教授を務めたパリ国立高等音楽院を退官後、パリ市立音楽院とエコール・ノルマル音楽院で教鞭を執り、東京芸術大学客員・招聘教授(2005年～2009年)を務め、2010年より現在は昭和音楽大学の教授を務める。多数の音楽大学(桐朋・国立・沖縄県芸・愛知県芸・フェリス・作陽・洗足など)にも招かれている。

コンクールの優勝・上位入賞者を多数輩出し、日本ヴァイオリン界のレヴェルアップにも、大きく貢献している。

世界中でマスタークラスを行っており、日本では、「京都フランス音楽アカデミー」「いしかわミュージック・アカデミー」「軽井沢国際音楽祭」「北海道アップビート国際音楽セミナー中札内」「河口湖音楽セミナー」等に招聘されている。

1995年フランス芸術文化勲章、1999年フランス文化功労賞を受賞。

日本弦楽指導者協会・日本フォーレ協会 名誉会員。

音楽の友社より2009年にドビュッシーのヴァイオリン・ソナタ、2011年にサン=サーンスの序奏とロンド・カプリチオーソ、2015年にフランクのソナタ、ラヴェルのソナタ、また2012年4月にレッスンの友社よりチャイコフスキーのヴァイオリン協奏曲のジェラルール・プーレ校訂を出版。

日本では次のCDをリリースしている。

〈クライスラーの珠玉の名曲集〉2006年 マイスターミュージック株式会社。

〈フランス3大ヴァイオリン・ソナタを弾く〉2008年 タカギ・クラヴィア株式会社。

〈ロシア・ロマン派を歌う〉2010年 タカギ・クラヴィア株式会社。

〈ピレネーの太陽〉2010年キング・インターナショナル。

〈ベートーヴェン 7、6、5番「春」〉2013年 ALM Record コジマ録音。

〈ベートーヴェン 9番「クロイツェル」、10番〉2016年 ALM Record コジマ録音。

〈グリーグ・スーク・スメタナをうたう〉2016年 タカギ・クラヴィア株式会社。

日本をこよなく愛し、日本とフランスをほぼ半々に生活している。

◆プーレ氏の言葉

「今が人生の最高。こんなに良い生徒たちを持ったのは生涯で初めて。多くの素晴らしい友人、同僚に恵まれ、日本にいる幸せを常に感じている。日本人の心(思いやり)、丁寧さ、規律の正しさ、日本の食事が大好き。」